

## CNS・CNから学ぶエビデンス

## 認知症ケアにおけるエビデンス

認知症看護認定看護師 山本 昌子

厚生労働省は2015年1月、「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を発表しました。新オレンジプランには「7つの柱」があります。今回注目したいのは、6つめの柱である「認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーション、介護モデルなどの研究開発及びその成果の普及の推進」です。

1960～1970年代は、認知症に対する社会的な認識がなく、ケアの理念や方法論もないまま、身体拘束や与薬、言葉による抑制が一般的に行われていました。1986年に厚生省に痴呆性老人対策推進本部が設置され、認知症施策の推進に取り組んできました。しかし、認知症ケアには確立されたエビデンスというものが少なく、効果の検証にも時間がかかっています。

団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、「認知症の人が自分らしく暮らし続けることができる社会」の実現のために、認知症ケアにおけるエビデンスを早期に確立し、より良いケアを提供していくことが求められています。

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>

## 便の形状スケール

がん看護専門看護師 蓮岡 佳代子

がん患者さんは、手術療法、薬物療法、放射線療法など治療によって排便障害を伴うことがあります。排便障害は、日常生活に影響し心理的な苦痛を伴ったり、治療の継続に関わることもあります。そのため、看護師にとって患者さんの排便状況の評価とその対応は重要です。皆様は日頃患者さんの排便状況を確認するとき、どのように行っているでしょうか？排便習慣は、個人差が大きいので日頃の排便習慣との比較が重要です。排便回数だけでなく、残便感の有無、排便困難感の有無、便の性状をアセスメントすることが必要です。

特に便の性状については、個人によって表現が異なるため評価をすることが困難な場合もあります。排便状況を客観的に評価するための指標の一つとして、ブリストル便形状スケールがあります。このスケールは、1990年代に英国で開発され便の形状を7つに分類し消化管通過時間との相関を示しています。このような客観的な指標を有効に活用し、がん患者さんの排便障害による日常生活への影響を最小限にできるような看護援助を行っていきましょう。

参考文献: 松原康美. 症状からみる排便障害. がん看護 Vol19.No7. 南江堂, 2014, p654-657

図: [http://www.carenavi.jp/jissen/ben\\_care/shouka/pdf/shouka\\_03\\_pdf\\_01.pdf](http://www.carenavi.jp/jissen/ben_care/shouka/pdf/shouka_03_pdf_01.pdf)

非常に遅い (約100時間)	1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兔糞状の便
↑ 消化管の 通過時間 ↓	2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
	3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
	4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
	5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
	6	泥状便		境界がぼけて、ふにやふに の不定形の小片便 泥状の便
	7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便
	非常に早い (約10時間)			

## 大学から学ぶエビデンス

「専門的緩和ケアサービスは、患者のQOLを向上させるか？」  
(Gaertner JらBMJ 2017;358:j2925)

保健学研究科 基礎看護学領域 齋藤 信也

緩和ケアの重要性は相当程度認識されていると思われませんが、特に専門的緩和ケアの提供は、患者のQOLを向上させるだけでなく、場合によっては、生存期間を延長するという報告もなされています。そこで、システムティックレビュー(多くの論文を系統的に集め、データを統合する研究手法:エビデンスレベルの最も高い研究と言われている)で、これを調べたところ、意外なことに、専門的緩和ケアは標準的な緩和ケアに比べて、患者のQOL改善に関して僅かな効果しか示しませんでした。ただし、がん患者に対する早期の介入にはある程度効果があることが分かりました。その原因として、この研究では専門的緩和ケアを多職種による緩和ケアの提供であると定義したこと、緩和ケアの専門家が単独で提供するケアは、そこに含まれておらず、結果として先ほど紹介した素晴らしい効果を示した論文が入っていないことが一つの原因であると思われます。なにをもって専門的緩和ケアとするのかというのは難しいところですが、多職種チームによる介入というのは標準的な考え方ではないでしょうか。



9月30日(土)に倉敷中央病院の福岡敏雄先生を講師に開催しました。

参加人数 : 25名(院内・学内 9名, 院外 16名)

参加職種 : 看護師、看護教員、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、看護教員、大学院生、医学科生

ファシリテーター : 医師 1名、看護師 2名、薬剤師 5名

今年の論文のテーマは「Hand washing promotion for preventing diarrhea」

参加者が保育士さんになり、【保育所での感染管理を考える】というシナリオで、システムティック・レビューをみんなで読みました。

「情報を集積する近道であるシステムティックレビューを検索することができる。」「システムティックレビューを用いて具体的な判断を提案することができる。」「今まで「英語論文を読む」ことに高いハードルを感じていた。レビューの量の多さにも辛さを感じたが、今回のお話を聞いて、少しハードルが下がった。」等、システムティック・レビューを読むことが、効率的で質の高い文献を探す糸口になるかを実感されたようでした。

文献 <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/14651858.CD004265.pub3/full>

アンケート結果(n=25)

■よくできた ■できた ■どちらでもない ■あまりできなかった ■まったくできなかった

	0	5	10	15	20	25
1. 臨床のシナリオから、複数の具体的な疑問・課題を作り出すことができる	1	13	10	4		
2. 自らが作り出した疑問・課題に重要な要素を挙げることができる	2	13	6	4		
3. そのうち、情報について自ら探し入手する手段を挙げることができる	2	17	4	2		
4. 複数の情報について、それらの妥当性、適用性の良し悪しを比較することができる	4	12	5	4		
5. 情報を集積する近道であるシステムティックレビューを検索することができる	1	17	5	2		
6. システムティックレビューを用いて具体的な判断を提案することができる	3	15	5	2		
7. EBPの手法を概説することができる	3	18	2	2		



岡山大学病院 看護研究・教育センター主催  
平成29年度 EBPワークショップ

**エビデンスをもっと身近に!!**  
**目の前の患者さんのために、論文の読み方を学びませんか?**

日々のケアにはどんなエビデンスがあるのか論文を活用しようとした際に、どう論文を検索すればよいか、また、英語で書かれた論文に読むテクニックについて学べます。科学的根拠を踏まえて、ベストな看護を提供するための方法を知る貴重な機会です。

日時 : 平成29年9月30日(土)  
9:00~16:30

場所 : (午前) 医歯薬融合型教育研究棟2階 情報演習室  
(午後) 医歯薬融合型教育研究棟4階 実習室1・2

講師 : 福岡 敏雄 先生  
(倉敷中央病院 救急救急センター センター長)  
他 ファシリテーター6名

対象 : 看護師、医療スタッフ、医療系学生  
人数 : 先着30名【締切:平成29年9月1日(金)】  
受講料 : 無料

【申し込み方法】  
件名は「EBPワークショップ申込」とし、本文に氏名・施設名・職種・連絡先を明記し、以下のアドレスにお送りください。  
E-mail : [ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp)  
URL : <http://ebn-journal.com/>

問い合わせ先  
岡山大学病院 看護研究・教育センター (福岡 馬場)  
TEL : 086-235-7808

英語論文抄読会のご案内

1月19日・2月23日・3月23日

いずれも金曜日 19時~

メンバー: 看護師・保健学研究科教員・薬剤師・医師・歯科医師・学生

場所: 総合診療棟東棟5階 第4カンファレンスルーム

参加希望の方は、[ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp)までご連絡ください

研修のご案内

「研究のプロセスを学ぶ」研修

下記①~④を2月に開催します。

- ① 日付未定 18時~19時
- ② 2月14日(水) 17時30分~18時30分
- ③ 2月21日(水) 17時30分~19時
- ④ 2月28日(水) 17時30分~18時30分

(②~④: 総合診療棟西棟5階 第13カンファレンスルーム)

お申込は[ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:ebnkango@cc.okayama-u.ac.jp)まで

文献検索方法  
業務改善と研究の違い  
研究計画書/倫理審査申請書の書き方  
研究結果の「正しい」見せ方

【編集後記】 EBPワークショップも3年目を迎え、英語論文を読む難しさを感じながらも、読み解くコツを知り、みんなでワイワイ語りながらできる楽しさもあります。日々のケアの疑問や助言を得るために論文に触れてみませんか。様々な研修に院外の看護職の方々にお越しいただき、情報交換ができることも収穫です。今年もあとわずか。みなさまお世話になりました。よい年をお迎えください。(馬場)